

がん患者の倦怠感及び呼吸困難の評価に関する研究

がん患者の倦怠感や呼吸困難は、頻度が高いにもかかわらず標準的治療法がいまだに確立されていません (文献 1,2)。その理由の一つとして「適切な評価方法」が存在しないことがあげられます。

倦怠感や呼吸困難などの症状は、疼痛と同様に主観的なものです。従って医療スタッフのバイアスを介さず、より適切に患者自身の状態を評価する方法の一つに自己記入式の質問票があります。

国立がんセンター研究所支所精神腫瘍学研究部は、がん患者に生じる倦怠感や呼吸困難といった症状の病態解明、さらには標準的治療法の確立に向けて、様々な研究に取り組んでいます。その第一ステップとして、これらの症状を評価する質問票を開発しました。がん患者の倦怠感を評価する質問票 Cancer Fatigue Scale と、呼吸困難を評価する質問票 Cancer Dyspnoea Scale です。

ここではこの2つの質問票の、開発時の考慮点及び使用時の注意点について説明し、あわせて質問票を具体的に紹介致します。

< 文献 >

1. Portenoy RK, Miaskowski C . Assessment and management of cancer-related fatigue. In: Berger A, Portenoy RK, Weissman DE (eds): Principles and Practice of Supportive Oncology, Lippincott-Raven, 1998, pp109-118
2. Ahmedzai S. Palliation of respiratory symptoms. In: Doyle D, Hanks GWC, MacDonald N (eds): Oxford Textbook of Palliative Medicine. Oxford University Press, Oxford, 1998, pp583-616

< 質問票開発時の考慮点 >

主観的症候を評価するための質問票を開発するにあたり、特に以下の4つの点を考慮しました。

(1) 自己記入式:

前述のように、主観的症候は患者自身の評価が基本であるため、本人に記入していただく自己記入式を採用しました。

(2) 簡便性:

対象となる患者は高齢であったり消耗していたりする場合が少なくないので、短時間で簡単に記入できる質問票にしました。

(3) 多次元性:

因子分析を用いて症状が複数の異なる次元から成り立っていることを明らかにし、多次元的な評価が可能な質問票を開発しました。

(4) がん患者における信頼性・妥当性:

どのような方法を用いても「主観」を完全に測定することは不可能ですが、こうした限界を充分認識した上で、現実的に可能な方法として質問票の作成を試みました。そして、作成した質問票が症状を正確に、かつ安定して評価できているかを、がん患者を対象として検討しました。

< 質問票使用時の注意点 >

一般的に、質問票を使用する際には、患者の状態に注意する必要があります。

全身状態が重篤であるなど身体的問題のために施行が困難であったり、せん妄・痴呆など認知障害のために回答の信頼性に問題があったりする場合があります。

また、質問票の内容やそれを使用する状況によっては、患者がストレスを感じる可能性もあります。

従って、本質問票を使用する際にも常に、患者の身体的・心理的状态について十分な配慮をすることが必要です。

それぞれをクリックしてお進みください。

[Cancer Fatigue Scale \(がん患者の倦怠感を評価する質問票\)](#)

[Cancer Dyspnoea Scale \(がん患者の呼吸困難を評価する質問票\)](#)

Cancer Fatigue Scale

倦怠感は「身体的・精神的消耗を含む衰弱として特徴づけられる主観的症状 (a subjective symptom characterized by generalized weakness including physical and affective exhaustion)」と定義されます (文献 1)。

倦怠感は終末期だけでなくがんのあらゆる臨床経過において生じ、また、手術・化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植といった治療に伴って出現することも報告されており、その頻度は 30-80% と言われています (文献 2,3)。

Cancer Fatigue Scale は、がん患者の倦怠感を評価するための簡便な質問票です(文献 4)。

<文献>

1. Bruera E, MacDonald RN. Asthenia in patients with advanced cancer. *Journal of Pain and Symptom Management* 1988;3:9-14
2. Stone P, Richards M, Hardy J. Fatigue in patients with cancer. *European Journal of Cancer* 1998;34:1670-1676
3. Smets EM, Garssen B, Schuster-Uitterhoeve AL, de Haes JC. Fatigue in cancer patients. *British Journal of Cancer* 1993;68:220-224
4. Okuyama T, Akechi T, Kugaya A, Okamura H, Shima Y, Maruguchi M, Hosaka T, Uchitomi Y. Development and validation of the Cancer Fatigue Scale: a brief, three-dimensional, self-rating scale for assessment of fatigue in cancer patients. *Journal of Pain and Symptom Management* 2000;19:5-14

Cancer Fatigue Scale の概略

目的: がん患者の多次元的な倦怠感の評価

対象: がん患者

(1) 自己記入式

1 (いいえ) から 5 (とても) のあてはまる数字に をする 5 段階評価、自己記入式の質問票です。

(2) 簡便性

質問は 15 項目で、約 2 分で記入できます。

(3) 多次元性

身体的倦怠感 (physical fatigue)・精神的倦怠感 (affective fatigue)・認知的倦怠感 (cognitive fatigue) という、3つの異なる次元の倦怠感を評価します。

(4) がん患者における信頼性・妥当性

がん患者において良好な信頼性・妥当性が確認されています。
(がんについて説明を受けている患者を対象に検討しました。)

[質問票を使いたい](#)

Cancer Dyspnoea Scale

呼吸困難は「呼吸に関する不快な感覚 (an uncomfortable sensation of breathing)」と定義されます (文献 1)。低酸素血症で定義される「呼吸不全」という病態とは必ずしも一致しません。

終末期がん患者における呼吸困難の頻度は 20-70%と言われており、原発性・転移性肺がんなどの肺病変がなくても生じます (文献 2-4)。

Cancer Dyspnoea Scale は、がん患者の呼吸困難を評価するための簡便な質問票です (文献 5)。

< 文献 >

1. Manning HL, Schwartzstein RM. Pathophysiology of Dyspnea. *New England Journal of Medicine* 1995;333:1547-1553
2. Ripamonti C. Management of dyspnea in advanced cancer patients. *Supportive Care in Cancer* 1999;7:233-243
3. Ahmedzai S. Palliation of respiratory symptoms. In: Doyle D, Hanks GWC, MacDonald N (eds): *Oxford Textbook of Palliative Medicine*. Oxford University Press, Oxford, 1998, pp583-616
4. Ripamonti C, Bruera E. Dyspnoea: Pathophysiology and assessment. *Journal of Pain and Symptom Management* 1997;13:220-232
5. Tanaka K, Akechi T, Okuyama T, Nishiwaki Y, Uchitomi Y. Development and validation of the Cancer Dyspnoea Scale: a multidimensional, brief, self-rating scale. *British Journal of Cancer* 2000;82:800-805

Cancer Dyspnoea Scale の概略

目的: がん患者の多次元的な呼吸困難の評価

対象: がん患者

(1) 自己記入式

1 (いいえ) から 5 (とても) のあてはまる数字に をする 5 段階評価、自己記入式の質問票です。

(2) 簡便性

質問は 12 項目で、約 2.5 分で記入できます。

(3) 多次元性

呼吸努力感 (sense of effort)・呼吸不快感 (sense of discomfort)・呼吸不安感 (sense of anxiety)という、3つの異なる次元の呼吸困難を評価します。

(4) がん患者における信頼性・妥当性

がん患者において良好な信頼性・妥当性が確認されています。
(がんについて説明を受けている患者を対象に検討しました。)

[質問票を使いたい](#)

Cancer Fatigue Scale, Cancer Dyspnoea Scale の使用について

これらの質問票の使用を希望される方は、「使用に際しての注意事項」をよくお読み下さい。注意事項にご同意いただける場合にのみ、次ページの該当質問票の「ダウンロードする」をクリックし、質問票とそのマニュアル をダウンロードすることができます。

質問票の使用に際しての注意事項

1. 本質問票の無断転載を禁じます。
2. 本質問票の仕様の変更を禁じます。
3. よりよい質問票とするために、本質問票の仕様について予告なく変更することがあります。
4. 本質問票を用いた研究の発表を行う場合は、下記文献を引用し、その結果（論文及び学会抄録）を当研究部宛に郵送して下さいようお願い致します。

<文献>

Cancer Fatigue Scale に関して

Okuyama T, Akechi T, Kugaya A, Okamura H, Shima Y, Maruguchi M, Hosaka T, Uchitomi Y. Development and validation of the Cancer Fatigue Scale: a brief, three-dimensional, self-rating scale for assessment of fatigue in cancer patients. *Journal of Pain and Symptom Management* 2000;19:5-14.

Cancer Dyspnoea Scale に関して

Tanaka K, Akechi T, Okuyama T, Nishiwaki Y, Uchitomi Y. Development and validation of the Cancer Dyspnoea Scale: a multidimensional, brief, self-rating scale. *British Journal of Cancer* 2000;82:800-805

< 研究結果の郵送先 >

277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がんセンター研究所支所精神腫瘍学研究部

明智龍男, 内高庸介

以上の注意事項に同意の上、[Cancer Fatigue Scale](#) をダウンロードします

以上の注意事項に同意の上、[Cancer Dyspnoea Scale](#) をダウンロードします